

平成28年度 滋賀の文化財講座



打出のコツチ

専門の文化財担当職員と学芸員がわかりやすく解説いたします。

第1回 5月19日(木)

来迎図・神像・懸仏

—平成27年度滋賀県新指定文化財より—

< 講師 >

古川 史隆

(県教委文化財保護課)



高月観音の里歴史民俗資料館蔵
金銅十一面観音懸仏

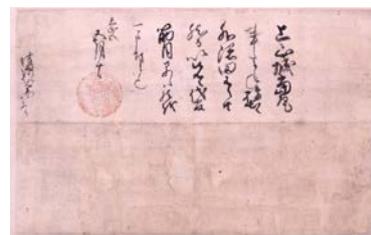
第2回 6月16日(木)

信長文書の世界

< 講師 >

松下 浩

(県教委文化財保護課)



安土城考古博物館蔵 織田信長朱印状

第3回 7月14日(木)

近江の神仏習合

—琵琶湖文化館収蔵品を中心に—

< 講師 >

渡邊 勇祐

(滋賀県立琵琶湖文化館)



琵琶湖文化館蔵 山法師強訴図(部分)

第4回 8月17日(水)

近江の奇祭

—中山の芋競べ祭り—

< 講師 >

矢田 直樹

(県教委文化財保護課)



日野町・中山の芋競べ祭り

第5回 9月15日(木)

琵琶湖文化館蔵『琵琶湖図』の 構図を読み解く

—朝鮮通信使とシーボルト—

< 講師 >

井上 優

(県教委文化財保護課)



琵琶湖文化館蔵 琵琶湖図(部分)

皆さまのご参加を

お待ちしております。

全5回

※ 都合により内容が変更
となる場合がございます。

【時 間】 13時30分～15時 (受付: 13時15分から)

【会 場】 コラボしが21 3階 大会議室
(滋賀県大津市打出浜2-1)

【募集人数】 各回200名

【受講料】 無料 (事前予約制・当日参加も可)

主催: 滋賀県教育委員会(主管: 文化財保護課)
滋賀県立琵琶湖文化館
後援: 滋賀県文化財保護連盟
公益社団法人びわこビジターズビューロー

【参加のご予約・お問い合わせ】

滋賀県立
琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先
TEL 077-522-8179 FAX 077-522-9634
E-mail biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp

平成28年度 全5回

滋賀の文化財講座

打出のコツチ

滋賀県には、国宝や重要文化財を含む多種多様な文化財が所在しています。滋賀県教育委員会と琵琶湖文化館では、これらの文化財を保護・活用するため、調査や保存修理・展示公開などさまざまな取り組みを行っています。

本事業は、行政と博物館が協働して、滋賀の文化財をめぐるホットな話題を提供し、文化財を身近に感じていただくとともに、その魅力をひろく県民に向けて情報発信していこうとするものです。

第1回

平成28年5月19日(木)

来迎図・神像・懸仏

—平成27年度滋賀県新指定文化財より—

平成27年度に新たに指定された県指定文化財のうち、神と仏の信仰に関わる3件の文化財を紹介します。絵画部門の阿弥陀三尊来迎図(大津市・光明寺)は、わが国の来迎図では唯一といついい往生者が蓮台に乗る姿が描かれます。彫刻部門の男神坐像(栗東市・五百井神社)は平成25年の台風18号による被害を受けましたが、関係者の尽力によって救出されました。工芸品部門の十一面観音懸仏(長浜市・高月観音の里歴史民俗資料館)は製作当初の銘文が残り、かつて湖北の古刹に伝来した由緒あるものです。滋賀県の長い歴史と豊かな風土で培われたこれらの文化財について、その特色を解説します。

第2回

平成28年6月16日(木)

信長文書の世界

織田信長というと、古いしきたりや秩序にはとらわれず、新しい時代を切り開いた革命児といったイメージが広く定着しています。しかし、信長の政策をみると、意外なほど現実的で、戦国末期という時代の枠組みのなかで行動していたことがわかります。信長の実像と一般に流布しているイメージとの間には大きなギャップがあるのです。

今回の講座では、少し角度を変えて、信長が発給した古文書を題材に、信長の実像に迫ります。古文書に書かれた内容だけでなく、手紙の書き方、紙の選び方など、新たな古文書の見方を通して、これまでとは違った織田信長の姿をご紹介します。

第3回

平成28年7月14日(木)

近江の神仏習合

—琵琶湖文化館収蔵品を中心に—

日本在来の神々への信仰と大陸からやってきた仏教とが融合する現象を「神仏習合」と呼んでいます。近江は、日本仏教の母山である比叡山をはじめ、仏教文化の拠点を多く有し、その教線が拡大するにつれて、それぞれの地域の風土や文化を反映しながら、神と仏が融合して特色ある数多の神仏習合美術が生まれてきました。

明治には神仏分離、それに端を発した廃仏毀釈の運動があり、神仏習合美術の作品の多くが破却されたり、散逸したりしますが、現在でも県内には地域の信仰や歴史を語る貴重な文化財として伝来しており、琵琶湖文化館にも多く収蔵されています。本講座では、これら守り伝えられてきた近江の神仏習合美術の作品について、近年の調査成果をふまえ、わかりやすく解説いたします。

第4回

平成28年8月17日(水)

近江の奇祭

—中山の芋競べ祭り—

日野町中山では毎年9月1日に「芋競べ祭り」と呼ばれるお祭りが行われます。このお祭りはその名のとおおり芋の長さを競うという行事で、民俗学の研究者には有名なお祭りですが、一般的にはあまり広く知られたお祭りではないと思います。この芋競べ祭りは、さまざまな儀礼的要素が組み合わさってできあがっているもので、いろいろ見どころが多くあるのも特徴です。全国的に極めて珍しいこの「奇祭」の魅力を紹介しつつ、さらに芋を掘り下げてみたいと思います。

第5回

平成28年9月15日(木)

琵琶湖文化館蔵『琵琶湖図』の構図を読み解く

—朝鮮通信使とシーボルト—

琵琶湖文化館が所蔵する円山応震筆の「琵琶湖図」。湖畔を行く朝鮮通信使行列が描かれることで注目され、平成28年3月にはユネスコ記憶遺産の登録候補として日韓共同申請のリストにも掲載されました。ところが良く見ると構図や描かれた風景などには解釈しづらい点が多く、謎に満ちています。シーボルトの著作『NIPPON』に描かれた琵琶湖図などをヒントに、謎多き絵に新解釈を試みます。

※日時・タイトル・講師および内容の一部について、都合により変更となる場合がございます。最新の情報につきましては逐次報道発表するとともに、滋賀県立琵琶湖文化館ホームページ(<http://www.biwakobunkakan.jp>)にて掲載しますので、直前にご確認のうえ、参加いただきますようお願い申し上げます。